

本時の視点	今後のエネルギー政策について根拠を明確にして話し合う活動を通して、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を育む。
-------	--

1 単元 世界と比べた日本の地域的特色

2 目標

- (1) 世界的視野からみた日本の地域的特色や、日本全体の視野からみたおおまかな国内の地域差に関心を持ち、それらを意欲的に追究している。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 世界と比べた日本の地域的特色を、「自然環境」、「人口」、「資源・エネルギーと産業」、「地域間の結びつき」の観点をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 世界と比べた日本の地域的特色に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択し、その情報から日本の地域的特色について読み取ったり、図表にまとめたりすることができる。
(資料活用の技能)
- (4) 世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野からみた「自然環境」、「人口」、「資源・エネルギーと産業」、「地域間の結びつき」を理解し、その知識を身に付けることができる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

本単元は、中学校学習指導要領地理的分野内容(2)「日本の様々な地域」の中項目イ「世界と比べた日本の地域的特色」にあたる。世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する地域的特色を理解させることを主なねらいとした単元である。日本の資源とエネルギー問題や日本の産業、農業の現状と課題などについて生徒の関心と結び付きやすい課題解決学習を行い、様々な資料から多面的・多角的に考察し、持続可能な社会像の構築を図ることもできる単元である。

(省略)

調査結果を見ると、日本の工業の課題においては、自動車工業や機械など生産の偏りや輸入や海外生産が占めていることを述べる生徒が多くいた。電力生産の課題については、原子力発電の問題や太陽光発電など、身近なニュースや話題になっている事柄を取り上げる生徒が多くいた。また、普段の学習から調べ学習に積極的に取り組んでいる生徒たちであるが、資料を選択し正確に読み取ったり、資料から読み取ったことや考えたことを自分の言葉で表現したりすることを課題に思っている生徒が多くいることが分かる。

本単元では、主題図やグラフ、イラスト等の資料を手がかりに課題解決をするとともに、できる限り身近な題材を取り上げ、興味・関心が高められるよう教材を工夫する。日本の資源・エネルギーと産業の現状と課題については、新聞やニュースなどの資料も活用しながら、資源を輸入に頼る状況や日本の第一次産業の特色、食糧自給率などを含めた日本の課題などについて自分の考えをまとめ、対話的な学びを通して課題解決が図れる場面を設定する。さらに、資料をもとに考えた事柄や考え方が既習内容や歴史的背景などと合致しているかなど確認したり、自己の学びや考え方を振り返る場を設定したりして、基礎的・基本的な資料活用の技能の向上と自分の成長を実感し、今後の学習への意欲付けを図る。

本時においては、学習した内容をもとに未来の日本のエネルギー政策について、帯グラフもとに自分なりの提案ができるようにする。そのために根拠を明確にして説明したり、質問したりできるワークシートを用意する。これらの活動を通して、現在日本が抱える諸問題についての認識を深め、持続可能な社会の実現に向けた考えを構築できるようにする。単元を通して、生徒が進行係を努め、生徒主動による課題解決に向けた話し合い活動を実施する。課題に対して資料をもとに考えを明確にし、比較検討・分類・整理・統合などの対話的な活動の場を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成し、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を養えるよう指導する。

4 研究の視点

(1) 研究1：対話的で深い学びのための手立て

資料を読み取り課題解決について話し合う場面では、資料のどのような内容、数値、項目等を根拠にして考えたのか伝え合ったり、比較検討・分類・整理・統合などの活動を取り入れたりと、社会的事象を多面的・多角的に考察できるようにする。

(2) 研究2：振り返り活動の工夫

終末の振り返りの場面では、学習計画表を活用して、課題解決に向けての自己評価や友達との交流からの学び、今後の学習について、自分の言葉で表現する活動を取り入れ、学習内容の定着や自分の成長を実感できるようにする。

5 学習と評価の計画（16時間扱い）

- 第1次 自然環境の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6時間
- 第2次 人口の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- 第3次 資源や産業の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6時間

時	学 習 活 動	評価の観点				評 価 規 準
		関	思	技	知	
1	世界の資源・エネルギーの消費と生産の特色について調べ、資源開発や再生エネルギーの活用について話し合う。	○	◎			世界の資源・エネルギーの生産や消費の現状や課題に関心をもち、意欲的に追究している。
2	日本の資源の有効活用やエネルギーと電力の特色や課題について話し合う。		◎		○	日本における資源の有効活用やエネルギーと電力の特色と課題について話し合い、理解している。
③ 時	日本の資源の有効活用やエネルギー政策の現状から、持続可能な社会に向けてのエネルギー政策について話し合う。		◎	○		持続可能な社会の実現に向けてのエネルギー活用について多面的・多角的に考察し、日本のエネルギー政策の提案について話し合っている。
4	資料から日本の農業や林業、漁業の特色や課題について読み取り、第一次産業における課題について話し合う。		○	◎		海外との競争や従事者の高齢化や後継者不足などの課題解決を多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。
5	日本の工業地域の分布や工業出荷額をもとに、日本の工業の特色と変化について主題図にまとめながら話し合う。		◎	○		日本の工業地域が太平洋ベルトに集中する理由と日本の企業が海外に進出する理由を考え、表現している。
6	産業別人口に占める第3次産業の割合を都道府県別に調べ、その特色について考察し、表にまとめ話し合う。			○	◎	地図や写真、グラフから、第3次産業の現状を読み取り、社会の変容との関係について考察し、特色を理解している。

- 第4次 地域間の結びつきの特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

6 本時の指導

(1) 目 標

日本の資源の有効活用やエネルギー政策の現状について、複数の資料や既習内容と関連付けながら多面的・多角的に考察し、持続可能な社会の実現に向けたエネルギー活用について、話し合うことができる。

(2) 準備・資料

ワークシート、大型TV、タブレットPC、資料、提示資料、付箋、グループ用ワークシート等

(3) 本校人権教育の視点との関連

エネルギー政策を提案し説明し合う場面では、発言に対しては肯定的に受け入れ、議論する際には、根拠を明らかにしながら自分の考えを伝え、議論し合うなどの活動を通して、他人の考えや立場を尊重し互いを高め合う態度を育成する。（視点1）

(4) 展 開

学 習 活 動 ・ 内 容	支援と評価（◎は研究の視点、■は人権教育の視点）
1 本時の学習課題を捉える。	・進行役の生徒が本時の課題を述べ、本時の学習の取

組について確認する。

今後の日本のエネルギー政策について提案しよう。

2 日本の資源・エネルギーと電力の特色について前時の確認をする。

- ・日本は資源を輸入に頼らざるを得ない。
- ・日本は資源が少ないがエネルギー消費は多い。
- ・再生可能エネルギーを用いた発電はコストがかかる。
- ・輸入を特定の国に依存している。

3 日本のエネルギー政策の提案をする。

(1) 教師から日本のエネルギー政策の提案についての説明を聞く。

- ・経済的視点
- ・環境的視点
- ・社会的視点 ・その他の視点

(2) 日本のエネルギー政策の提案について考える。

「日本のエネルギー政策は、() から考えて～」

(3) 同視点ごとに意見を交流したり、異なる視点の生徒と話し合ったりする。

(4) 同視点ごとのグループで日本のエネルギー政策の提案会議を実施し、グループの提案用の帯グラフを制作する。

- ①自分の提案を説明する。
- ②話し合いながら、考えをまとめる。
- ③全体で発表し話し合う。
 - ・コスト面から考えて、火力発電を中心にし、二酸化炭素の排出を抑えた火力発電の開発を進めればよい
 - ・環境面から考えて、太陽光発電など再生可能エネルギーを中心にする。
 - ・オール電化や電気製品の普及面から考えて、安定した発電量が期待できるものにすべきである。

4 本時のまとめと振り返りをする。

- (1) まとめを書き発表する。
- ・経済面や環境面、社会面など、日本のエネルギーの発電方法を考える必要がある。
 - ・再生可能エネルギーや資源の再利用など、環境面を考えた取組が必要である。
 - ・安定した発電のために発電技術の開発も必要である。

(2) 振り返りを書き発表する。

5 次時の課題を確認する。

・前時に扱った資料を提示しながら日本の資源・エネルギーと電力の特色について確認するようにする。

・グループで話し合った際に使用したワークシートなども、テレビに提示し、学習内容が想起できるようにする。

・日本のエネルギー政策の提案を発電量の帯グラフで表し、その根拠となった特色を整理できるワークシートを用意する。

・前時までの学習をもとに、日本の資源・エネルギーと電力の特色を踏まえた視点を持ち、自分の考えをまとめるよう指示する。

・エネルギー政策の提案作成が滞っている生徒には、机間指導しながら、ヒントカードを用意する。

・課題解決の焦点化を図るために「日本のエネルギー政策は、() から考えて～」の書き出しに続けて、エネルギー政策案について述べるよう指示する。

・意見交流の時間を設定し、自由に動き回りながら対話をし、友達の意見をメモしたり取り入れたりしながら、自分の考えを再度構成するように声かけする。

◎グループ内で発表し合う際は、帯グラフを作成した根拠をワークシートを活用し説明したり、資料を提示したりし考えを述べるよう指示する。(研究1)

・グループで帯グラフを作成する際は、持続可能な社会に向けての立場や日本のエネルギーと電力の特色を踏まえた立場などが考慮できるよう板書を工夫したり、机間指導しながら声かけしたりする。

◎協働して帯グラフを作成する中で、自分の考えと他者の考えを比較し、それぞれのエネルギー政策の視点を検討したり、考えをすり合わせてたりして決定していくことで、事象を多面的、多角的に捉えられるようにする。(研究1)

■発表に対しては肯定的に受け入れ、議論する際には、根拠を明確しながら自分の考えを主張し話し合いながら、互いを高め合う態度を育成する。

・本時の学習で分かったことを自分の言葉でまとめるよう助言する。

◎振り返りには、課題解決に向けての自己評価や新たな気づき、考えを深めた友達の意見、新たな課題について書くよう助言する。(研究2)

(評) 社会的な思考・判断・表現

(ワークシート・観察・対話・発表)

日本における資源の有効活用や持続可能な社会の実現に向けてのエネルギー活用について多面的・多角的に考察し、日本のエネルギー政策の提案について話し合っている。

・次時は、日本の農業・林業・漁業の特色と課題について学習することを確認する。